



1 主題

楽しく学ぼう！みんなで学ぼう！
～多様な人と学び合う姿を目指して～

2 実践について

本校では、昨年度「ナゴヤ学びのコンパス」の理念を大切にし、それぞれの学級で重視したい学びの姿（自分に合ったペースや方法で学ぶ、多様な人と学び合う、夢中で探究する）の内の一つを取り上げて授業実践を行った。

実践を通して、発達段階に応じた支援を行うことで低学年から高学年までで自分に合ったペースや方法で学ぶ児童の姿が少しずつ見られるようになった。また、中学年から高学年にかけては、解決してみたいと思える課題を設定することで、単元全体を通して夢中で探究する児童の姿も見られるようになった。しかし、重視したい学びの姿の一つである「多様な人と学び合う」ことを取り上げた授業実践は十分にできなかった。理由は、一人一人の学力差が大きく学級単位での学び合いが成立しにくいという本校の実態や、学び合う人を学級から学年、学校、地域、社会へと広げていくための学習活動の設定の難しさが挙げられる。

そこで本年度は、「多様な人と学び合う」ことを目指して授業実践に取り組んでいく。授業実践では、本校の実態を踏まえ、まず学級の仲間と安心して学び合うことができる「ゆるやかな協働性」を醸成することを意識し、そのうえで、様々な人との協働的に学習や活動に取り組む時間や場の設定に力を入れていく。そして、学び合う人を学級から学年、学校、地域、社会へと広げていき、「多様な人と学び合う」ことを目指していく。児童が自分に合ったペースや方法で、学習課題を夢中で探究する中で、多様な人と学び合うことができれば、「ナゴヤ学びのコンパス」で目指す、自律して学び続ける児童にさらに近付くのではないかと考える。

3 多様な人と学び合うとは

ナゴヤ学びのコンパスには、「学びは本来、年齢に関係なく、多様な人たちと触発し合いながら互いの考えを深め、発展していくもの（P.13）」と記されている。つまり、ナゴヤ学びのコンパスが考える「学び合っている姿」は、互いの考えを深め、発展していく状態を意味する。本校の今年度の授業実践では、児童が自分に合ったペースや方法で、学習課題を夢中で探究する中で、まずは学級の仲間、さらには同学年や異学年の児童、地域や社会の人と互いの考えを深め、発展していく姿を目指して取り組んでいく。

4 推進方法

研究の推進は、主として授業実践により行う。授業実践は、1学級一実践とする。

- (1) 学年ごとに年間計画を作成し、それぞれの学年で前期に第一次実践、後期に第二次実践として授業実践を行う。
- (2) 前期終了後、中間報告会は集まっての会は行わず、紙上発表で行い、第一次実践についての成果、課題を共有する。
- (3) 第二次実践は、中間報告で明らかになった成果や課題などを基に行う。
- (4) 第二次実践終了後、全体会として最終報告会を行い、年間に各学年で成果、課題について共有したり、来年度の方向性について話し合ったりして、次年度につなげる。